

## 上黒岩遺跡現状測量調査報告

Survey Report About the Actual State of the Kamikuroiwa Site

KOBAYASHI Ken'ichi

### 小林謙一

上黒岩遺跡は、西日本の四国の山間部、愛媛県久万高原町に所在する縄文時代草創期・早期に属する岩陰遺跡である。1961年5月に地主の竹口渉と義照の父子が発見し、発掘調査は1961年10月から1970年10月までの間、5回にわたって、江坂輝彌（慶應義塾大学文学部）、西田栄（愛媛大学教育学部）、岡本健児（高知女子大学）、小片保・森本岩太郎・小片丘彦（新潟大学医学部）らが発掘した。

上黒岩遺跡（国指定史跡名として「上黒岩岩陰遺跡」）については、国立歴史民俗博物館個別共同研究「愛媛県上黒岩遺跡の研究」〔2004～2006年度、研究代表春成秀爾〕による共同研究によって、出土遺物の再整理調査を行い、その成果を中心に歴博研究報告に報告した〔春成・小林2009〕。その中で、遺跡の調査状況についても、慶應義塾大学江坂輝彌研究室保管の調査日誌・野帳・図面・写真の整理から、報告書に整理結果を掲載した。その一連の作業の中で遺跡の現状や周辺調査も現地にておこなった。

2005年度に、旧美川村教育委員会、久万高原町教育委員会の協力のもと、小林謙一、兵頭勲、遠部慎が立ち会い、株式会社埋蔵文化財サポートシステムに測量業務として委託し、光波測定機による現状測量を実施した。測量結果により、トレンチ・調査区の位置、断面セクション図の位置や標高を割り出し、研究報告に図示したが、現状測量図については紙数の関係等により掲載しなかった。しかしながら、今後の遺跡保存や遺跡研究に関して重要な情報を含んでいるので、その際作成した現状図についてここに補遺として掲載することにしたい。あわせて、第2次～第5次の調査当時の調査図面が残されている。そのうちの土層断面図については、殆どについて上記の現状調査図とあわせることでセクション図として復元し得たので、国立歴史民俗博物館研究報告154集に掲載したが、一部のセクション図については確実な位置を復元できなかった（Eトレンチセクションなど）。また、遺物出土位置のポイント図・平面図が残されているが、位置が不明なものが多かった。これらについて、まだ整理が十分でないが、原図そのものをいくつか紹介しておくこととしたい。

現状測量は、岩陰現況平面図、川からの断面図、保存されているセクション断面の実測である。図1～4がその際の測量図である。

図1は、岩陰および周辺地形を、久万川からの位置で平面図に測量したものと、その垂直断面図である。現状の川床からの高さが読み取れる。

図2は岩陰保存部分の現状平面図である。土層1とあるのは、保存区として包含層が塔状に残さ

れ、断面がアクリルで固められている部分である。奥の部分（調査区A区）も高く残されている。手前の階段部分は、保存箇所から取り付けられたコンクリート製の階段である。

図3は図2の土層1とした保存区の断面で、4次調査の際にセクション図が作成されている。図には断面に残されていた礫についても図示している。再整理では、原図と現状測量図とを対比させ、研究報告154集図12にCセクションとして掲載した部分に当たる。調査時のセクションは任意で設定し壁にマジックで書かれた線を基準としたレベル高で作成され、絶対高は不明であったが、現状測量図とあわせることで標高を確定できる。この土層1図では、原図とおおよその礫の位置関係は合致させることができた。

図4は図2に土層2として記してある位置の断面図である。奥の調査区A区のIV層以下が残されているがその手前側の調査区第3トレンチの部分が凹んでおり、土層2保存区にかけて断面状に残されている部分があるので断面を現状測量した。ただし、この地点は調査においてセクション図を作成した地点ではなく、かなり廃土がかぶっている部分であるので、遺跡の内容を表す情報には乏しい。

調査時点において作成された図も、調査区全体平面や主要なセクション図については整理し、研究報告154集に掲載したが、整理し切れていない図面も多く残されている。今後に情報を得ていくためにも、一部をこの機会に紹介しておきたい。

図5はセクション図である。図5上段は、4次調査の際のFトレンチセクションで、左側はトレンチ南壁セクション〔研究報告154集図14〕、右側はその続きのFトレンチ西壁セクションと考えられる。2段目のセクションは、Eトレンチと記載され、E区西壁セクションと考えられる。下段は2次調査の際に西田栄が略測した図面らしい。他にセクション図があり、それから研究報告154集図12-Aセクションとして報告した。

図6は遺物のポイントなどを記録した平面図である。多くは任意の地点に釘を打って平面図を作成しており、遺跡全体の中の地点が現在は不明である。上段は、VI層の記述がある灰層範囲平面図である。VI層中に炉の可能性のある灰の広がりがあることを記録している。下段は、大礫や骨らしきものが散在する地点で、土器などの出土位置をポイント・微細図で記録した図面である。他にも、遺物ナンバーが書かれた平面図が存在するので、位置がわかれば、遺物出土状況の確認や共伴関係の確認に重要な資料となるだろう。機会があれば改めて図面整理を試みていきたい。また、写真資料についても撮影時・地点など不明なものも多く残されており、整理していく必要がある。

---

#### 参考文献

春成秀爾・小林謙一編 2009「愛媛県上黒岩遺跡の研究」『国立歴史民俗博物館研究報告』第154集 国立歴史民俗博物館

(中央大学文学部、国立歴史民俗博物館共同研究員)

(2010年9月27日受付、2011年5月30日掲載許可)

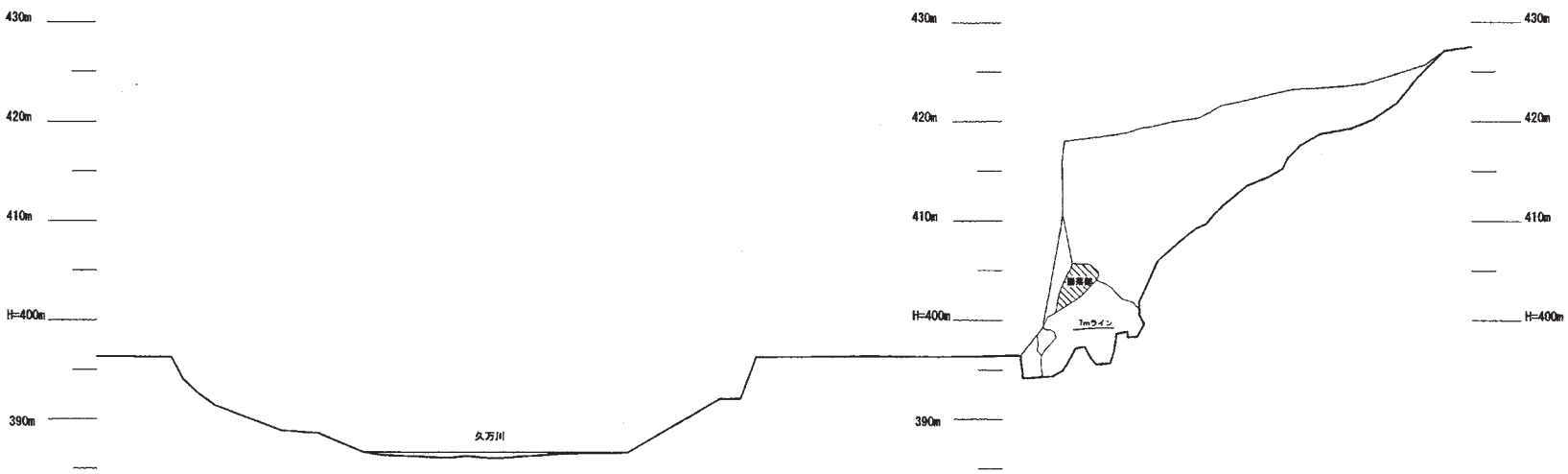
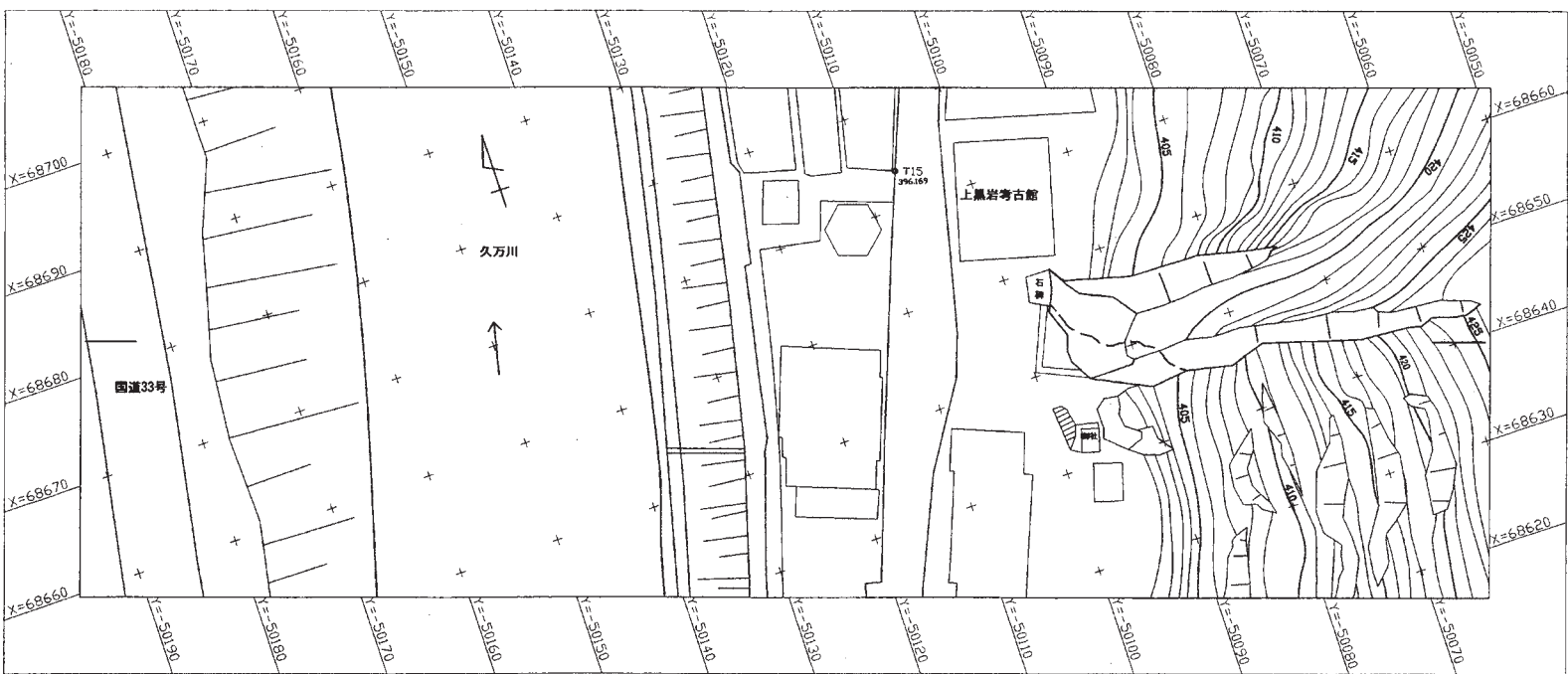


図1 上黒岩岩陰周辺地形測量図・垂直図(1/750)

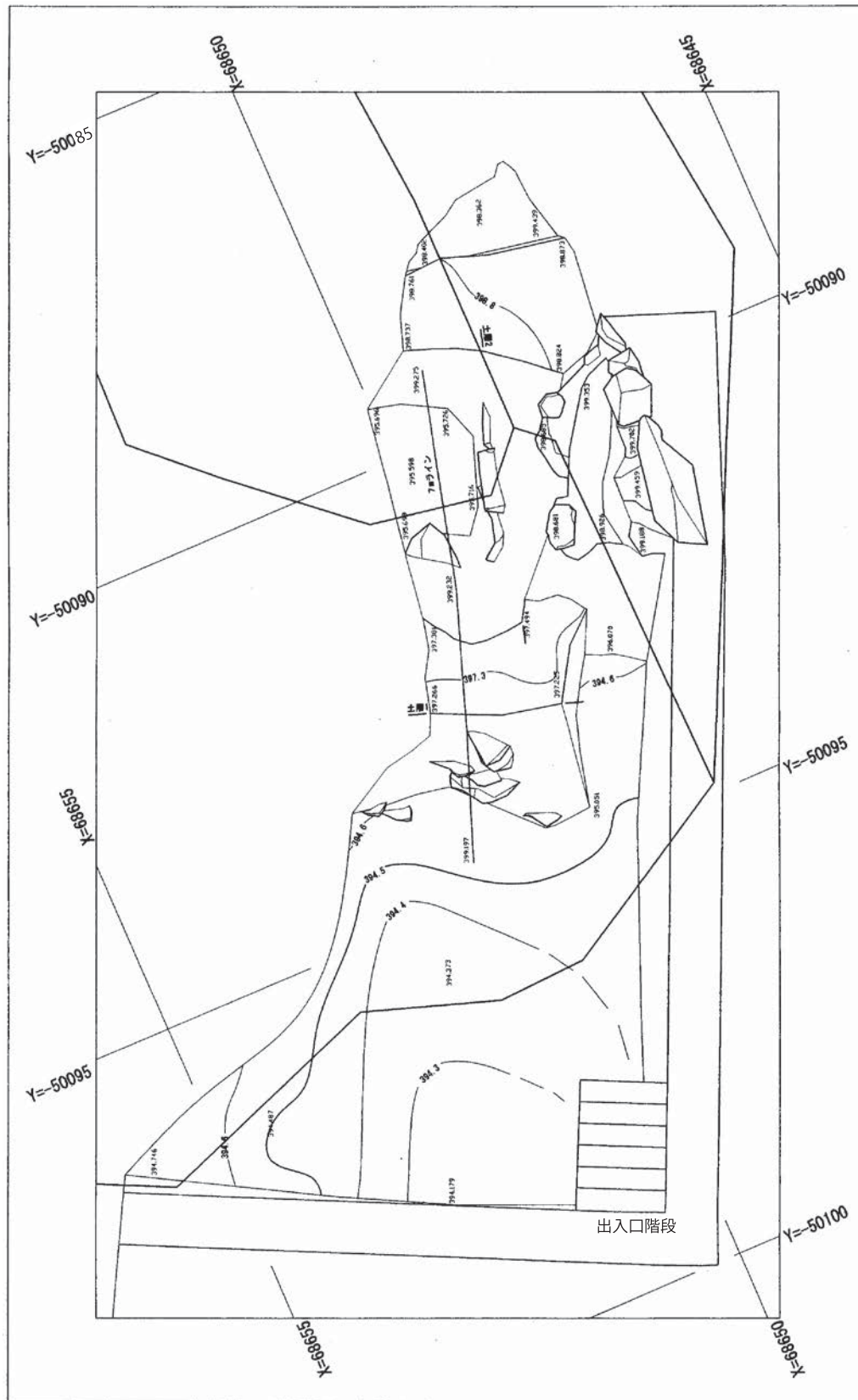


図2 上黒岩岩陰平面測量図(1/75)

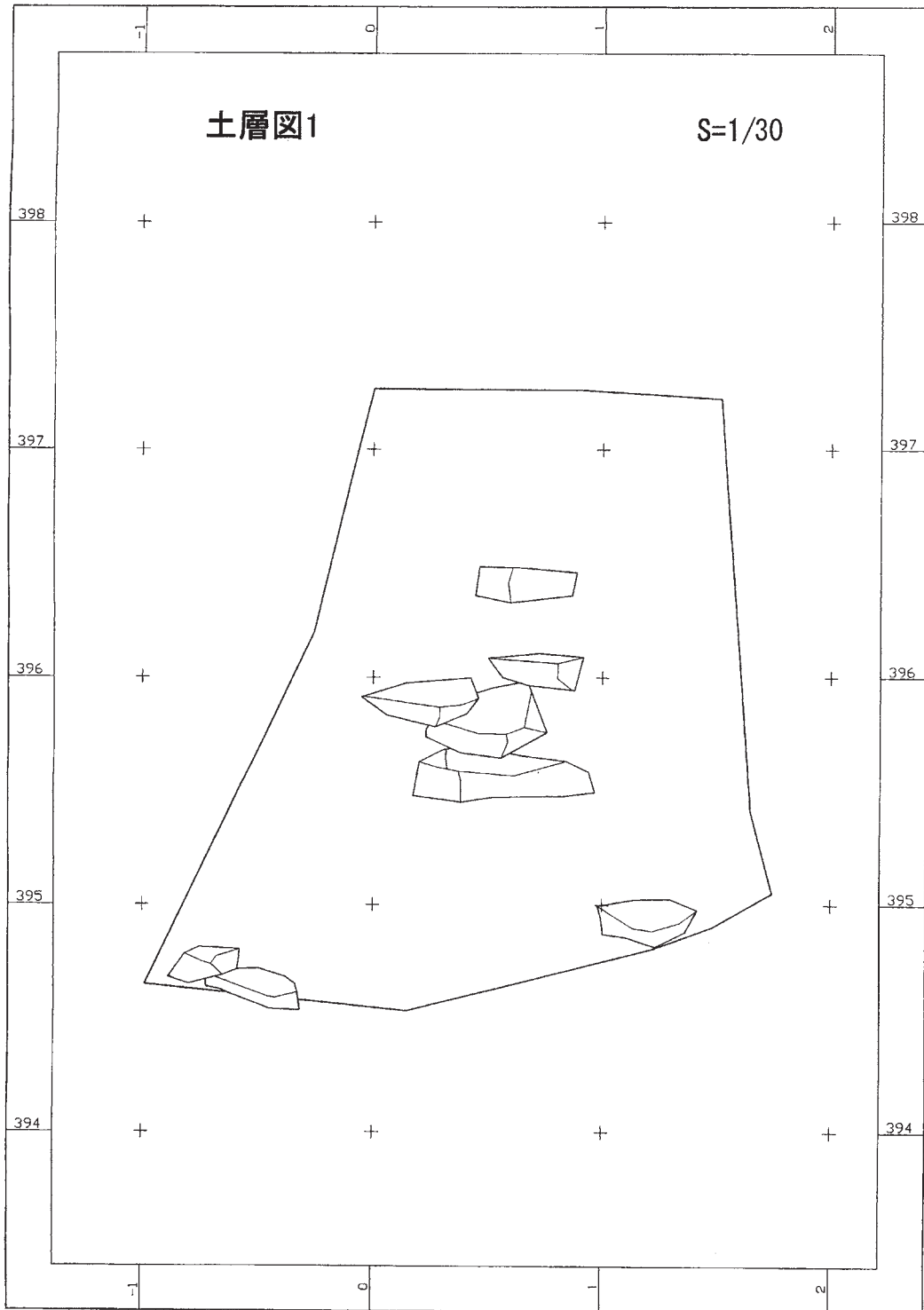


図3 上黒岩岩陰保存土層1現状セクション(1/30) 4次調査 研究報告154-図12Cセクション

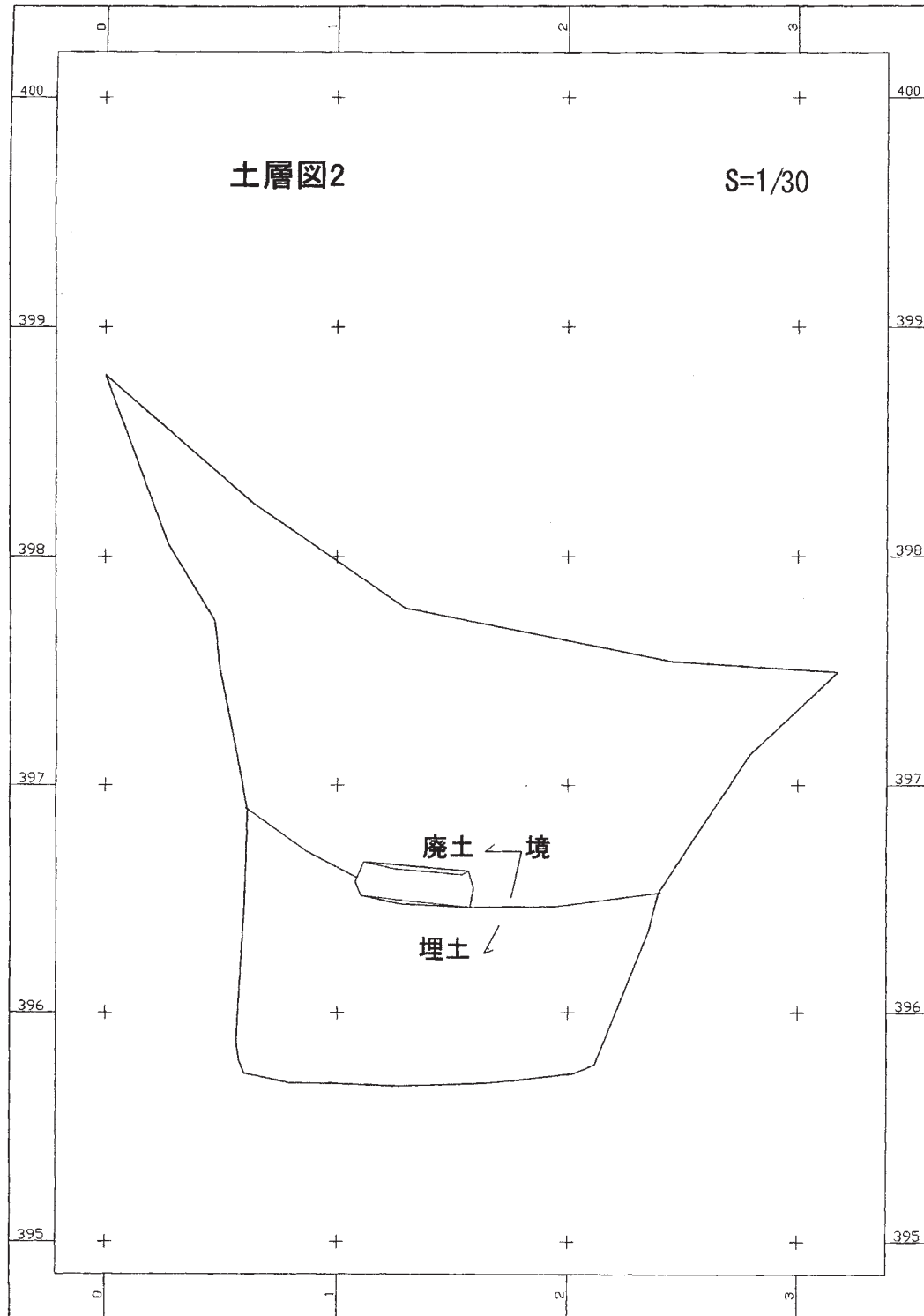
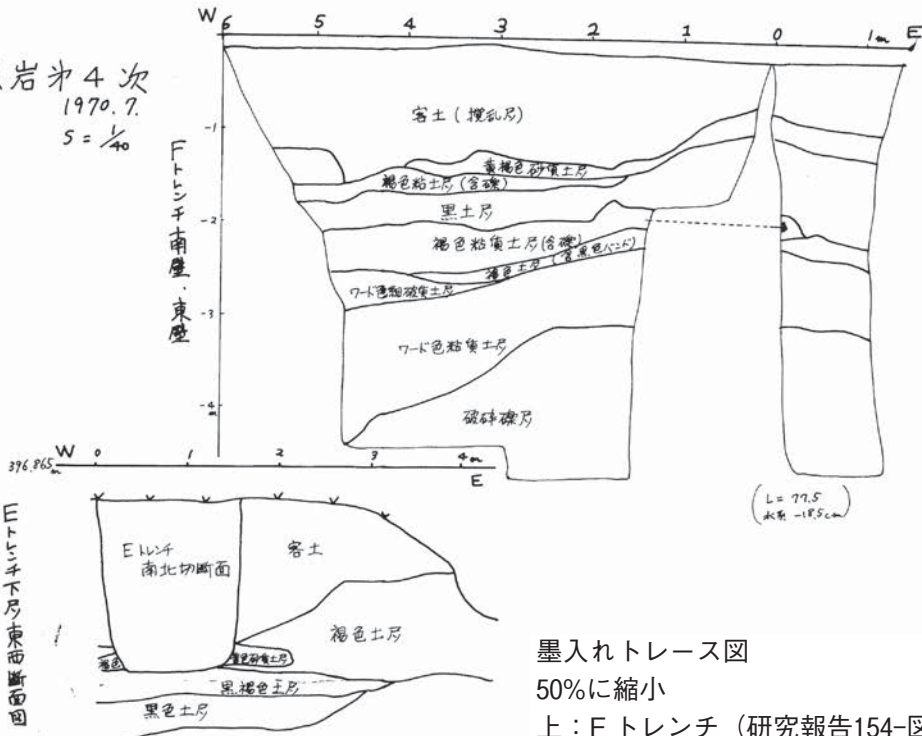
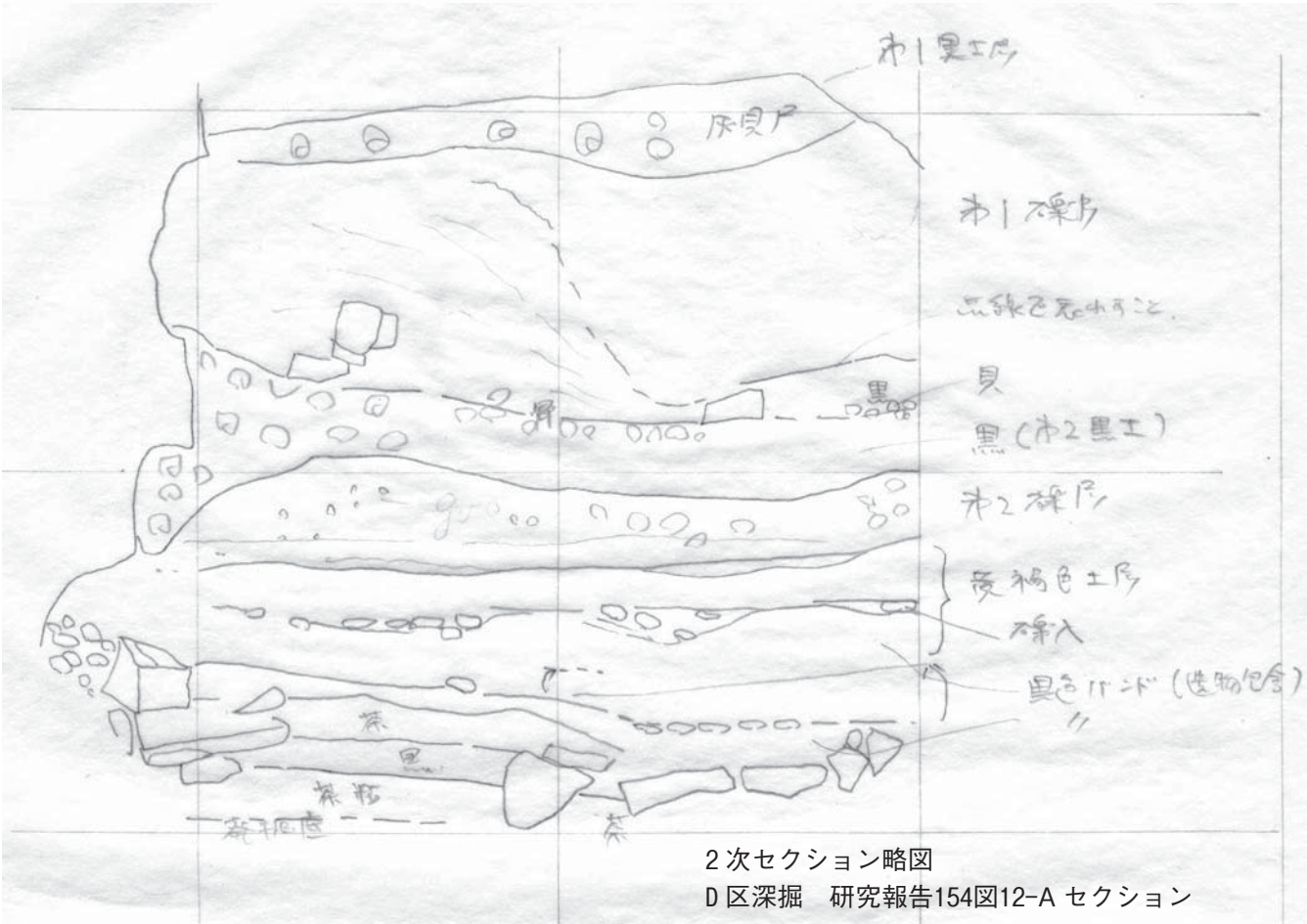


図4 上黒岩岩陰保存部分・土層2 現状セクション(1/30) A区保存部分

上黒岩第4次  
1970.7.  
S = 1/40

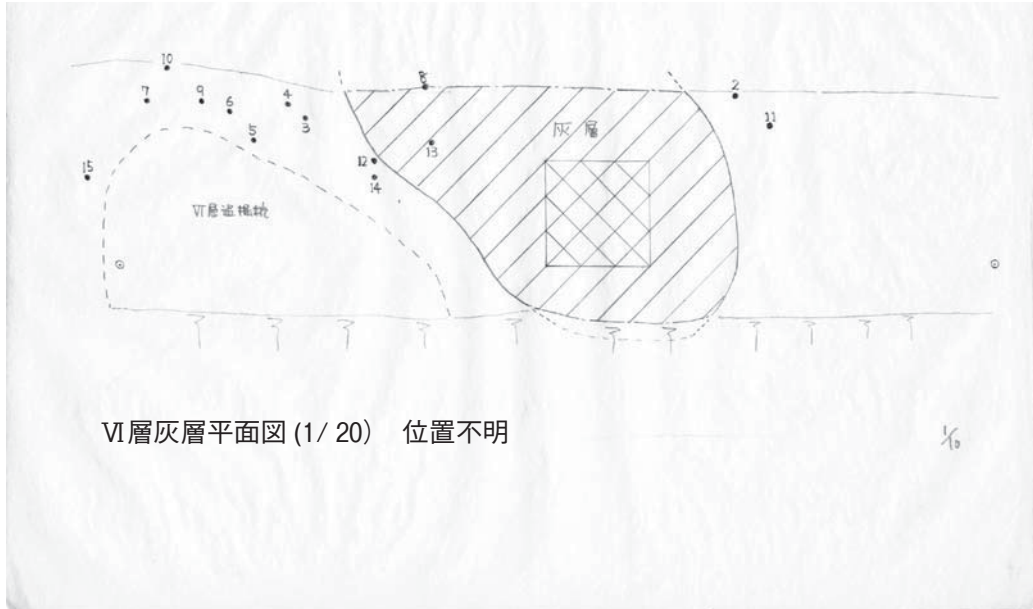


墨入れトレース図  
50%に縮小  
上：Fトレンチ (研究報告154-図14)  
下：Eトレンチ

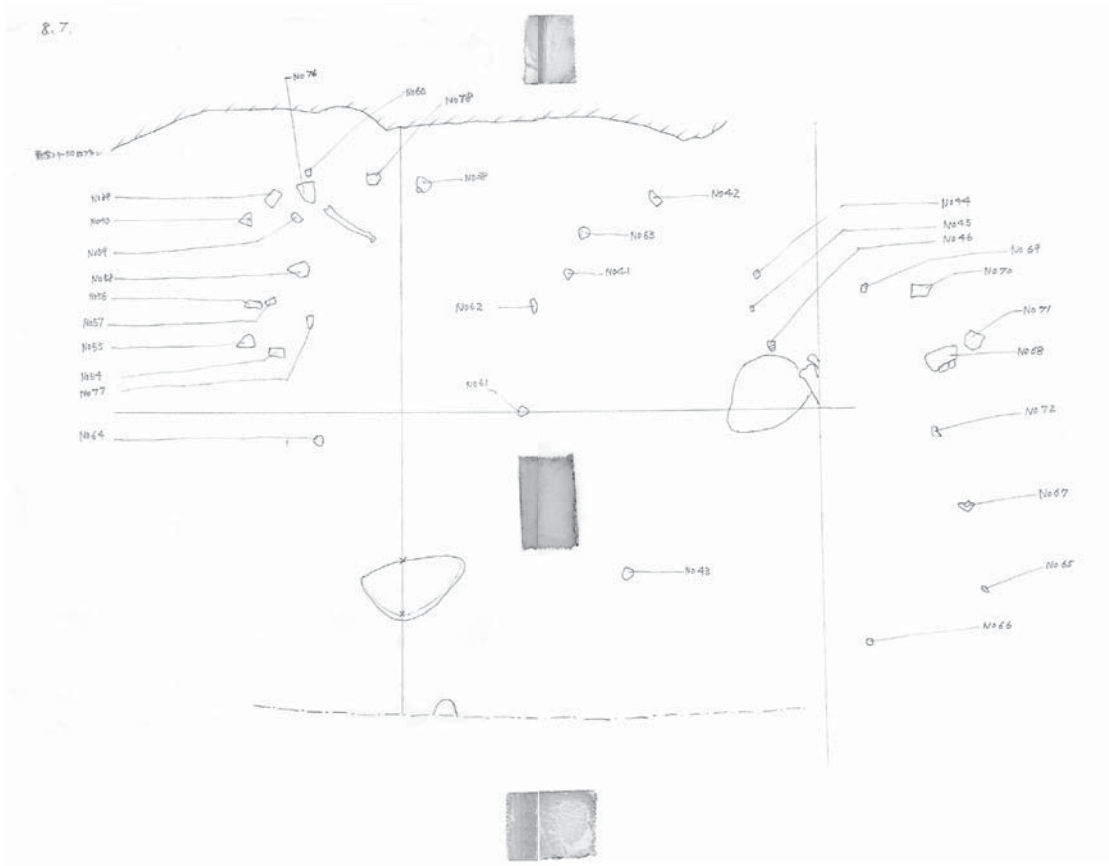


2次セクション略図  
D区深掘 研究報告154図12-A セクション

図5 上黒岩岩陰セクション原図



VI層灰層平面図 (1/20) 位置不明



遺物出土状態平面図 位置不明

原図を約40%に縮小, セロハンテープで貼り合わせてある

図6 上黒岩岩陰平面図原図